

若浜の子ども



令和5年9月26日 第5号

勝つこと以上の大切な宝物を たくさん見つけた運動会活動

「年令の違う子どもたちが、助け合っのり越える姿にたくさんの感動をいただきました」…多くの保護者の感想に表されるように、運動会という活動が持つ魅力や特性をはるかに超えて、たくさんのドラマが生まれた運動会となりました。

運動能力を競い合う「運動会」というより、「チーム解決力発表会」と呼び方を変えた方がいいのではと思うほど、子どもたちはたくさんの宝物を準備や練習の期間全てにおいて探し出してきました。

特に今年度は、猛暑による熱中症を気にしながら、それでも延期までしてでも必ず実施しようという意気込みとこだわりを持ってきました。



【運動会活動（準備期間中と当日本番）の中の「自分から」「温かさ」】

- ◇応援の勢いを確かなものにするために、休み時間も、打ち合わせや声をかけ合って練習する姿
- ◇「なかよし種目」「全員リレー」での走る力を補い合いながら、チーム全体でがんばろうとする姿（人の能力や価値観の多様性を認め、助けようとする大切な姿勢です）
- ◇幹部リーダーの本気が伝わって、まねを始める下級生の姿（上級生のいない間を進んでひきうける下級生）
- ◇あいさつ、返事、廊下歩行、素早い整列など、日常生活のマナーや秩序正しさにつなげる姿
- ◇応援の仕方、種目のコツを下級生に教え、伝えあう姿
- ◇準備活動に手を貸してくれた先生方に「ありがとうございました」と感謝の意を表す姿



上級生の競技中に、ピンチヒッター応援をする中学年の子もたち



上級生と下級生が助け合っ、ボールを運びます



解団式で思いを伝え合う応援団幹部の子もたち

【運動会活動（当日前・準備期間中）の「見つけた宝物」】



↑暑さで全校練習ができないため、なかよし種目のやり方動画をつくる実行委員



↑上級生応援団の真似をして、教室練習する低学年の子どもたち



↑ランドセルの並べ方一つで勝利に結びつきます



↑前日準備で、リヤカーを使って一生懸命にテントを運ぶ6年生



↑応援練習で下級生を座らせる上級生



↑応援練習に行くときの歩き方とあいさつは、運動会後も続いています。



↑休み時間も担当の先生と打合せする応援団幹部

運動会という、どうしても当日の子どもたちの姿が注目されがちですが、実は当日に至る前の準備期間中の方が伸びが大きいのです。私たち教職員は、準備期間中にも指導の在り方を工夫して、子どもたちの「集団解決」や「宝物さがし」を見守ってきました。

どの宝物にも「自分から」「温かさ」の心にあふれています。総合得点優勝や応援賞、看板賞はいただけるチーム数は限りがあるけれど、それ以上の宝物を見つけた子たち、そして見つけたよりよい生き方を続けて行くことこそ、「本当の勝利者」なのだと思います。

【子どもたちの感想より「見つけた宝物」】

◇自分たち6年生にとって一番の運動会にすることができました。実行委員として、なかよし種目のプロジェクトをがんばってきました。上級生が下級生を面倒見ながら協力して競技ができるようにルールづくりを工夫できたこと、全校生がそのねらいを意識してくれたことが一番です。

◇全員リレーは、一人一人が全力でがんばっていました。惜しくも一位にはなれませんでした。勝つことよりも大切なことを手に入れられました。それは正々堂々と競うということです。一位になれなかったことを誰かのせいにした、責めたりしなかったことが一番うれしかったです。最後は笑顔で拍手を贈っていました。

準備や後片付けへの協力くださった保護者の皆さんの働きぶりにも感服しました。このような姿が子どもたちにも伝搬しているのでしょう。また、猛暑による熱中症対応のための延期へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。おかげ様で子どもたちの「運動会を通したよいよい生き方探し」を十分に行わせることができました。来年度は、10月中旬頃の実施を計画しております。PTA 役員の皆さんと共に検討していきたいと考えています。